

平成 29 年度 第 1 回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	平成 29 年 11 月 17 日 (金)
開催場所	新庄市役所東庁舎会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、阿部仁美委員、齊藤浩昭委員
欠席者	なし
事務局	荒川正一教育次長兼教育総務課長、齊藤民義学校教育課長、荒澤精也社会教育課長 東海林主幹、佐藤教育総務主査、柴崎学事主査

議 事 の 大 要

午後 3 時 56 分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

(1) 平成 29 年度全国学力・学習状況調査及び山形県学力等調査並びに新庄市学力向上戦力について
(市長) (1) の学力向上戦略について説明をお願いします。

(学校教育課長) 全国学力調査結果ですが、小学 6 年と中学 3 年を対象に国語 A・B、算数 A・B の調査が行われました。小学生は、国語 B は県平均と同程度ですが、その他の科目で全国・県平均を下回っています。中学生もそれぞれの科目で全国・県平均を下回っています。グラフでは全問正解や高得点者が平均より少なく、また正解数が少ない子供が平均を上回っています。課題として一つは上位層の育成、また、2 問、3 問で引っかかっている子供の理解を進める必要があると考えます。新庄市は全国と比べ、小学生では阻害要因として「テレビを見る時間が長い」とあります。ただ自己肯定感は強まっており、自分では頑張ろうとしているところが見受けられます。いいところは地域への行事への関心が高く、地域に根ざした子供達が育つというところですが、課題となるのは、「算数の勉強が好きだ」「内容がよく分かる」というあたりが落ち込んでいます。中学生では阻害要因の「テレビを見ている」「ゲームが多い」「スマートフォンなどで SNS の利用が高い」ところが例年課題になっています。家庭学習でも「宿題をしている」「予習をしている」という子供が少なくなっています。ただ中学生でも地域社会に根ざしているところは特徴なのかなと思います。数学については「好きだ」「よく分かる」というところが落ち込み、国語においても中学生では「よく分かる」というところが少なくなっています。対策として、各学校の効果ある取組をまとめた「アクションプランを受けた取組共有シート」を作成し学校と共有化しています。教育委員会だよりでは、保護者へ実態をお知らせし、学習時間と学力の関連性を周知し、ゲームの時間などの我が家のルールを作るなど、各家庭での取り組みもお願いしています。

続いて山形県の学力等調査ですが、こちらは小学 5 年と中学 2 年の県の調査です。複数の教科を合わせて出題した合教科型のものとなっています。「広げながら考える力」「深めながら考える力」

「組み立てながら考える力」それぞれ県平均を上回っています。

最後に新庄市学力向上戦略をご覧ください。N R Tは全学年の平均が偏差値50を上回っているかを記載しています。小学校では国語、社会、理科が大きく上回り、算数は若干上回っています。中学校では数学は同程度、英語は若干下回りましたが、そのほかは上回っています。課題としては中1の学習内容の学力が少し下がっているという状況です。成果を上げている取り組みとしては安定した学級経営が一番の学力向上だと思っています。単元設定や帯時間で学習していくなど様々な取り組みをしています。成果が上がらない原因は評価が甘い、振り返りが弱いのではないかとすることがあります。今日何を勉強したのかということをお子さんが自覚しないままに授業が終わっていないか、指導主事も学校訪問しながらアドバイスしています。また、つまずいたままになっていないかということがあります。これまでの取組として授業改善、大学講師の招聘、研修会の開催、人的配置などもしています。県教育事務所でつまずきの問題集も作成しており、同時に新庄市では過去3年間のつまずきを調べ間違いが多い箇所を示しながら各学校に配布しています。地元企業で採用してもらえるような学力の基礎を小中学校でつけることも必要と思っています。子供達に目標を持たせるキャリア教育も重要と学校にお願いしています。戦略・政策としては、まず人的配置をしていく、またICTの活用についても考えていく必要がある。それから様々なボランティア、地域力を活用していくなど8項目をあげています。

(市長) 各委員からご意見をいただきたいと思ます。

(山村委員) 学力の実態を示すと、学校もなんとか改善しなくてはならないと意識が強くなります。子供同士の思考の練り合いを重視した授業を展開していますが、指導者の指導力の差を改善していく必要もあります。秋田県ではどの先生も同じ授業をする体制づくりをし、学力の高い県となっています。ただ、秋田県は大学進学率が低く、いわゆる難関大学への進学が少ない原因として、下位の学力をあげる努力をしているが、上位の学力を上げる手立てが甘いのではないかとされています。上位も下位もそれぞれの子供にあった指導の工夫をする必要があります。一方で、地域がどうやって子供達の学習体制を支援していくかが課題と思います。家でゲームをする時間が長いということをお考えた場合、地域にはお年寄りやボランティアがいるわけですが、退職した先生方などの力を借りながら、地域で子供を支援できないものかと感じます。地域の役割と学校の役割、それぞれ役割分担しながら進める必要があり、コーディネーターをどう育成するか悩みの種です。

(阿部仁美委員) 学力を上げることは大変難しいことです。授業の仕方が以前に比べ変わり、教えられる授業から、みんなで考えていく授業となっています。みんなで考えていくことは応用力に結びつきます。家庭学習が足りないと言われるかもしれませんが、どうやったら勉強が面白くなるかということで、そのためには先生の力は大きく、教え方や話し方で興味を持ち面白くなると思ます。

(教育長) 秋田の成果を聞くと特に新しいことをしているわけではないです。新庄市でも、課題を持たせてしっかりと取り組み、応用問題もしながら、振り返りの質を上げていく必要があり、普段の授業をきちんとできるかということが一番大きいと思ます。普段の授業に取り組める余裕が十分とれないのが現状かなと、専念できるための環境づくりを行政としてやっていく必要があると思ます。今の子供はテレビゲームが好きなので、それを活用した取り組みを行う。塾などではタブレット

トを活用し、それを操作していくと問題が解けるということもあります。そういうものを学校に配置できないかと思います。タブレットを操作するような教材を予算化できればと思いますが、市販されているのは少ないです。山村委員から地域の教育力を借りてとりましたが、教育新聞に地域の先生方が自分達でいろいろ集めて授業をしたということもあります。地域の教育力をもっと広げられたらいいと思います。

(齊藤委員) 学力向上という点で考えれば、子供達の一日の生活リズムを、家庭でできることをきちんととしていかなければならないと思います。学校できちんと学習できる体制を整え、力を出させてあげるには、家庭でのルール作りが必要だと思います。きちんと朝ご飯を食べて学校に行くことによって、集中力が上がり勉強ができて、家でも家庭のルールに従い、決められた時間帯で学習するといった一日のリズムを作ることを、保護者としてあるいはPTAが検証して予定を組んでいく必要があると思います。教育委員会としてもフォローできるような取り組みが必要だと思います。

(阿部浩悦委員) 探求型学習の授業で一番大事なものは、子供達がどのようにコミュニケーションをとるかだと思います。グループの中ではリーダーもいれば、発言できない子供もいます。自分の意見を述べて、人の意見も正しく聞けるというのが一番大切だと思うし、そういう風に育ててくださる先生方の存在がより大事だと思います。先生の魅力にひかれ、自分達も学ばなければならないという雰囲気を作れる先生が必要だと思います。子供達が、テレビゲームやスマートフォンに触れる時間が長いとなれば、ICTをうまく活用して授業ができれば、もっと多く子供達に学ばせることができる気がします。SNSで悲惨な事件が起きていますが、判断する力も必要だし、家庭で良い悪いも教えてあげるべきだと思います。SNSに頼らずお互いに顔を見て話しができ、意見を言い合い、分かり合える。子供達をどう伸ばしてあげるかは、我々親が、そして先生方とともにコミュニケーションをどう取り、よし悪しの判断をさせることができるかということが非常に大事な部分であると思います。学力を上げるのも大事ですが、先生方をいい雰囲気の子供達の授業に向かわせてあげられないか、いい指導者が育っていただけることが大事なところでもあるのかなと思います。

(市長) 指導力となると非常に難しい、個人の能力に関することでもありますので、本人は一生懸命やっていますが極められるかということが非常に難しいです。県内のソフトテニスの指導者の中に、全国で優勝するチームを作る一流の指導者がいます。ノウハウを持っており、本人が全国を回り相当勉強していると思います。学校で学んだものだけでなく日本一になりたいと目標持ってやっていると、その先生を信じて子供達も集まってくる。相当きめ細やかに子供達のことを見ていると思います。上位を上げる手立ては大事だと思います。今、新庄東高校が成功しており、E、A、S、Tコースがありそれぞれのコースの子が刺激し合いお互いに伸びています。トップを上げると裾野が広がります。トップの子供達は負けず嫌いのところがあるので、そのやる気を出させてあげ、トップを作り頑張っている姿をみせると刺激になります。あのような先生になりたい、あのような人になりたいと目標を持たせると意欲に代わってくるのかなと思います。勉強を面白くさせる方法としてタブレットの活用もあると思います。東大に入学した子供の勉強方法がクイズ形式で問題を作成しゲームとして勉強したという例を聞いたことがあります。そういった今の時代に合わせた環境を作っていくことを、先生方で工夫していただいて子供が自ら授業に参画していくという雰囲気づくりができたらいいいのではないのでしょうか。振り返りとありますが、授業の最後に必ず大事なポイ

ントをしっかりと確認すると効果があると思います。あと、難関大学に入った子供の勉強場所は食堂だと話を聞いたことがあります。親の近くで勉強をさせるといい、ただ親がいない家庭もあります。家に帰ったときに親がいないという寂しさ、そういった子供達を受け入れる施設、どこか一軒家を借りて先生達が交代で来てフリー塾などもあるのかなと思います。

(山村委員) 山形大学エリアキャンパスで、あるグループから、今ガキ大将がいなくなったという話がありました。ガキ大将の役割とはなんだろうなという話になったのですが、悪いこともいいことも先輩が教えて後輩を育ててきましたが、今はそれができなくなってきています。地域格差や少子化など様々な社会的条件により、なくなってきている。じゃあその代わりになるものはなんだろうとなったのですが、地域のリーダーが各地域にいれば、つまり地域コーディネーターということになるのですが、なんとか地域に根ざす手立てがないのかと思います。地域の指導者をいかに育てていくか、作っていくかが今後必要になってくると思います。

(阿部仁美委員) 子供達の勉強する場所を作ってあげると子供達にとってはいい機会になるのではないかと、そういうことが習慣づけされていくといいと思います。

(教育長) 自分がなりたいものを4年生くらいに早めに意識させて、1年間を振り返りながら自分は何をしなくちゃならないのか思わせるようなことが必要だと思います。

(齊藤委員) 2年前に八向楯が国の指定文化財になりましたが、子供達にも地域の歴史文化を伝えていかなければならないと、地元で八向楯への道を草刈りして子供達が登れる環境を作ってきました。地元の総合学習を担ってきた団体が、だんだん高齢化してきていますが、次の世代に引き継いで行けたらいいのかなと思います。

(阿部浩悦委員) コミュニティスクールのメンバーはだいたいPTA出身だと思います。今後コミュニティスクールを推進していくにあたっては、PTAの存在抜きでは学校の運営もなかなかできないでしょうし、先生方がうまく親御さん達とコミュニケーションをとれるか、大人同士がコミュニケーションとれるかということもあると思います。こういった人が学校と地域を結んでくださるということは確かだと思いますので、今後とも次々と続くのであれば学校という一つのコミュニティはこれからも健全に続くことができるだろうと思います。

(市長) みんな思いは同じだと思いますので、地域も家庭も学校も力合わせながらというところで子供は成長するのだらうなと思います。帰属意識というか地元びいきというか、人はどこかで繋がっていたいというのがあると思うのですが、新庄市の子供達の学力が伸びてきたとか、いいところを地域の人やPTAのおかげですと、地域の励ましで子供達が伸びていると、みんながプラスのところにいるということは心地いい世界であると思います。プラスのところでは生きていける環境、子供のことは地域の人に関心が高いので、そういうところにみんなで力を合わせてプラスにもっていかなければならないと思います。学力も上げながら、トップが上がると底辺が広がってプラスの共有感をみんな貰えるのかなと、マイナスの気持ちは共有したくないので、プラスの共有をみんなで持てたらいいと思うのでより一層学力向上に知恵を使ってお願いしたいと思います。

(2) 八向地区公民館について

(市長) それでは八向公民館について説明をお願いします。

(社会教育課長) 八向地区公民館は、平成9年に旧本合海児童館の建物を活用し設置しました。建物自体、昭和40年に建築され老朽化が著しく対策が必要になっています。改築の要望をたびたびいただきましたが、場所の選定や財政事情などにより現在に至っています。昨年度、住民アンケートを実施し、今年に入り本合海区長による公民館早期着工推進協議会が設置され今月末には要望書も提出すると伺っています。八向地区の代表区長にも八向地区公民館の話をしていただきました。また、12月11日に、市区長協議会のブロック研修会後に八向地区の改築の件について説明することとしています。施設整備の方向性として、改築と生涯学習施設としての機能強化を検討しています。八向地区の生涯学習活動が、建物自体の老朽化もあり活動範囲が狭まっている部分もありますので、職員やコーディネーターを配置しながら生涯学習施設としての機能強化も図っていく必要があると考えています。関連しまして、升形の地域公民館ですが、現在普通財産として升形地域の方に貸している状況にあります。駅伝の中継所として使っており、トイレや水回りの改修なども地域の方から早急に整備を並行して考えてほしいとの要望もあります。皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

(齊藤委員) 八向地区公民館が古いものですから、何かがあったときには大変ではないかなといつも感じていました。また、地元のコミュニティの中心ということで必要不可欠な場所でもあると思いますし、今日提示いただいた内容でぜひ進めばと思います。近所に芭蕉乗船の地があり、ときどき観光に訪れる人がおりますので、展示コーナーやトイレなどもきれいな施設であれば、なお、良いのではないかと地元の方からも意見を頂戴してきたところです。

(市長) 調査するときには面積も出していただきたい。どういった施設機能を入れるのか。来年度中に申請しないと補助金も大変ですから、31年度くらいには建設するぐらいの覚悟で来年しっかりと説明できるように。トイレなども一工夫すると外からも中からも使えるやり方があると思うので。それから避難というのは考えない方がいいと思います。避難所は高台にある学校とし、公民館は、今以外の場所に建てるのは困難であると思います。30年度に調査して基本設計の形ぐらいまで見えるように、そして国の補助金がもらえるようにできればと思います。升形のトイレも来年度要求し、使いやすいようにしてもらいたいと思います。

(市長) そのほか何かございませんか。なければこれで協議は閉じます。

4. その他

特になし

5. 閉会

午後5時25分閉会する。